

株式会社イーシステム

CG系映像制作・映像アプリ開発を行い 北信越でオンリーワン企業に

MRのゴーグル型試作機を装着しながら、映像技術の未来について語るイーシステムの中村秀樹社長。場合によっては、いわゆるテレビはなくなるかも……!?ちなみに中村社長は今、遊泳している宇宙飛行士を見ている。



↑(株)能作の新社屋に設置された富山県の観光等を紹介するプロジェクションマッピング。富山県の形をしたスクリーンに天井から映し出している。

まずは上の写真をご覧ください。平昌五輪の熱気に当てられて、スキー用のゴーグルをつけている訳ではない。イーシステムの中村秀樹社長が装着しているのは、VR(バーチャルリアリティ)、AR(オーグメンティッドリアリティ/拡張現実)の次にくるといわれているMR(ミックスドリアリティ/複合現実)のデバイス。同社はこのデバイスで動作するアプリケーションの開発に取り組んでいる。

このデバイスを使うと、テレビを見ることはもちろんのこと、戦国時代に瞬間移動したかのような風景を目の前に現すことが可能だ。また設計段階の構造物を3Dで映像化して、通信機能を使って遠隔地の設計者と同じデータを見ながら打合せすることもできる。アイデア次第でさまざまなアプリケーション開発が可能というわけだ。

「将来的にはもっと小型化され、一人一台の時代がくるでしょう。今、ARやMRの開発に取り組んでいる企業のほとんどは大都市圏に集中し、北信越にはほとんどないので危機感を持っています」

中村社長はそうやって同社の取り組みを紹介してくれた。ちなみにこのデバイスを装着した時、目の前に広がっていたのは果てしない銀河と地球をバックに遊泳する宇宙飛行士の姿。編集子も試着させていただき、体が浮くような錯覚に包まれた。

自社の強みを生かして水平展開を

システムエンジニアとして業務システムなどの設計開発を行ってきた中村社長が、イーシステムを立ち上げたのは平成16年2月のこと。北陸では珍しいCG系映像によるテレビCMの制作を業務とするようになった。

映像制作を大別すると、実写系とCG系に分けられる。実写系はカメラでの撮影が主で、CG系はパソコンのデータ上で映像を制作。CG系制作会社の9割以上は首都圏に集中しているという。

では競合する会社がほとんどない地方で、同社は安泰であったのかというと、そうでもない様子。テレビCMは景気の動向に左右されやすく、不景気になると



↑地元テレビ局・北日本放送(KNB)用に制作した、オープニングとエンディングのCG画像。前半はプロジェクションマッピング風に演出され、後半は富山の自然を表現している。

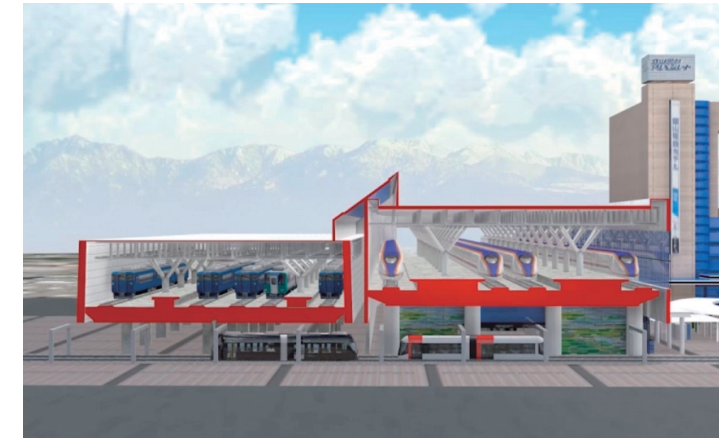
すぐに制作依頼が少なくなってしまう。そこで中村社長が考えたのは、自社の強みである3D-CG技術を生かし、テレビCM以外にも水平展開することだ。

ところがもともと地方ではCGによる動画作成のニーズが少ない上に、営業活動が不慣れな同社にとっては、「水平展開」といってもなかなか成果が上がらない。そこで知人の経営者に相談したところ、商工会議所経由で当センターを紹介され「富山県よろず支援拠点」で経営相談を行うとともに「中小企業首都圏販路開拓支援事業」の採択を受けて、新しい営業活動に乗り出した。

「よろず支援拠点では、『CG動画を作成している企業が、富山にあること自体が珍しいから、そこを前面に出したらいい』と2人のコーディネーターからアドバイスされ、また当時、新社屋を建設中だった高岡の(株)能作さんが、『プロジェクションマッピングができる会社を探しているから紹介する』といってすぐに電話してくれました」と中村社長は語り、「中小企業首都圏販路開拓支援事業では、販路開拓マネージャーのネットワークを生かしていくつもの企業に連絡を入れていただき、当社の技術を紹介する機会をつくっていただきました」と続けた。

カーエレクトロニクスメーカーから受注

その結果、大手カーエレクトロニクスメーカーからの仕事の依頼を受けるようになり、在京のテレビ局もCGの作成などを前向きに検討してくれるようになったという。また当センターに相談に通う内に、同じ建物にある富山県機電工業会でサンプル動画をお見せしてプレゼンする機会を得、その結果、ある役員から「当社にきて欲しい」といわれて打合せを重ねるうちに受注に



↑富山県機電工業会でサンプルとしてお見せした北陸新幹線富山駅の3D画像のスライスモデル。この他に駆動中の車のエンジンのスライスモデルを角度を変えながらご覧いただいた。

至ったようだ。

徐々に販路が広がってきた同社。中村社長はさらなる飛躍を期して「とやま起業未来塾」(29年度)に入り、「全天球」の事業化と拡大についてのプランを練ることに。富山は屋外型観光地が多く、例えば悪天候の際は立山連峰の眺望を楽しむことはできないが、全天球を用いると屋内の大型タッチパネルで大迫力の画像を360度で体感できるようになるという。また、目の前の風景のディスプレイ上の画像に400年前のお城を再現し、当時の武士の目線で城内を進んだり、城のスライスモデルを表示したりすると、観光や歴史、建築などさまざまな視点で楽しむことができ、CGを応用するビジネスシーンは無数にある様子。「未来塾を通してメシの種のまき方や刈り入れ法を学んだ」と微笑んだ。

Profile

所在地	富山市山室391-1
資本金	500万円
従業員	3名
事業	映像制作、対話型インタラクティブシステム開発、3Dモデリング
T E L	076-481-6625
F A X	076-481-6635
U R L	http://esyst.webnode.jp



標高などの数値データを元に作成した立山連峰の立体的なCG画像を例に、インタラクティブな世界の可能性について語る中村社長。